

	視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、各教育部門における系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①児童・生徒のキャリア発達に即した系統性のある教育課程の編成に向け、組織的な授業改善を継続し児童・生徒の自立を促進する指導の工夫を行う。 ②教材・教具や学校図書及び指導案の情報の共有と有効な活用を促すシステムを構築する。	①小グループでの実践研究とプロジェクトチームによる課題研究を推進し、指導体制や授業のあり方、適切な評価等、日々の実践を見直し、授業改善に取り組む。 ②教材・教具・学校図書及び指導案の情報共有と活用に向け、サーバーの活用と、手に取れる目に触れる形を検討し実践する。	①小グループでの実践研究とプロジェクトチームによる課題研究を通して授業改善ができたか。 ②教材・教具や学校図書及び指導案の情報共有と活用に向け、サーバーの活用と、手に取れる目に触れる形が構築できたか。
2	児童・ 生徒指導・ 支援	児童・生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた指導・支援を充実させる。	①校内における専門職・教育相談担当等との相談システムの構築と活用により校内支援の充実を図る。 ②新書式による個別教育計画の運用を見直し、個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援を継続する。	①地域連携係に学部担当を設け、専門職・教育相談担当等とすぐにつながる相談システムを構築し、システムの活用による校内支援の充実を図る。 ②新書式の書式上の課題をさらに整理・検討・修正するとともに、運用について見直し、個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援を継続する。	①校内相談システムの構築により、専門職・教育相談担当等との校内相談回数が増加したか。また、相談後に支援の質の向上につながったか。 ②新書式の個別教育計画の様式や運用の見直し・改善ができたか。また個別教育計画を活用した適切な引き継ぎに基づく指導・支援ができたか。
3	進路指導・ 支援	将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①発達段階に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた学習内容に取り組み、卒業後の生活を見据えた進路指導・支援の充実を図る。 ②福祉制度や地域の情報を計画的に保護者や教職員に提供し、進路指導・支援に係る理解啓発を図る。	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を継続する。特に高等部は進路指導担当と連携した授業や清掃技能検定に計画的に取り組む。 ②保護者に向け計画的な進路説明会・福祉サービスなどの情報の提供を行うとともに連携部便りを保護者及び教職員向けに発行する。	①キャリア教育の「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導ができたか。また、高等部は進路指導担当と連携した授業や清掃技能検定に計画的に取り組む。 ②保護者ニーズを把握し、内容を精選して計画的に説明会ができたか。また、連携部便りは、月1回程度保護者と教職員向けに発行し計画的な情報の提供ができたか。
4	地域等との 協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援を推進する。 ②地域に向けた研修の開催や、地域と連携した教育活動に取り組む。	①インクルーシブ教育実践推進校、クリエイティブスクール両校の実践を通じたニーズに応じた継続的な支援に取り組む。 ②地域に向けた研修会等を実施する。学校ホームページは今年度同様に月2回更新する。併せてスムーズに更新ができるよう一覧表を作成し計画的な運営を行う。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援が計画的に進められたか。 ②地域に向けた研修会が実施できたか。 最新の情報の掲載がスムーズにできたか。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 不祥事防止に努め、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。	①児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 ②おだようメールの活用を幅を広げ緊急時だけではなく教育活動内容の情報を発信し、児童・生徒の登録増をめざす。必要に応じて各種マニュアルを改善する。 不祥事防止に努める。	①感染症やアレルギー等への対応マニュアルの策定、高度な医療ケア等への対応など、関係部署との連携や外部機関との専門的な情報共有のもと安全な運営を実施する。 スクールバス運行に係るバスポイントやコースの見直しを進める。 ②おだようメールの活用を周知するとともに情報発信の項目を増やし登録数増をめざす。 毎月不祥事防止チェックシートによる個人点検を行う。	①保健室等との情報交換を密に行い、学部と連携しながら各指導等を徹底できたか。主治医、担当医と連絡を密に取り合い、適切に医療ケアができたか。 スクールバス運行にかかる適切な見直しが見直しができたか。 ②おだようメールによる情報発信の項目を増やし、登録数の増につながったか。 毎月チェックシートでの点検を行い、不祥事を防止できたか。